

自己評価結果公表シート（令和 7 年度）

令和8年3月1日
聖和幼稚園

1. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画を基に設定した学校評価の具体的な目標や計画

保育者一人ひとりの個性を保育に生かし、お互いの能力を高める。

2. 評価項目の達成及び取組み状況

評価の項目			評価と課題
Ⅰ 保育の計画性	1	園の教育理念・教育目標の理解	教育課程・指導計画については、幼児の発達ならびに実態を踏まえて柔軟に対応できるようにしている。近年では個別での対応が必要なケースも多く、対応力を求められている。
	2	幼稚園教育要領の理解	
	3	教育課程の編成	
	4	指導計画の作成	
	5	環境の構成	自らの保育についての評価・反省については概ね平均的な評価であったが、今後も自らの保育を顧みる努力を惜しまないようにしたい。
	6	評価・反省	
Ⅱ 保育の在り方、 幼児への対応	1	健康と安全への配慮	健康と安全への配慮については”安心・安全”が第一とされる保育現場において最も重視されるところであるが、登園時の視診、けがや事故の報告・連絡の徹底、園内の清掃・整理整頓等には重点的に取り組んでいる。 保育者同士の協力・連携については、報告・連絡・相談を大切にして、共通理解を深め保育に生かしている。
	2	幼児理解	
	3	指導とかかわり	
	4	保育者同士の協力・連携	

Ⅲ 資 質 と 能 力 保 育 者 と し て の	1	専門家としての能力・姿勢・義務	保育の専門家については概ね平均的な評価。 「教職員全員で一つのチームである」という意識が高く、園の特色と保護者からも評価されている。プライベートにおいても保育者としての自覚をもった言動・行動に努めたい。
	2	組織の一員としての在り方	
	3	保育の楽しみ・喜び	
Ⅳ 保 護 者 へ の 対 応	1	情報の発信と受信	保護者との個々のやりとりについては少し低めの評価があったが、毎日送迎の保護者と、バス通園の保護者との間での機会のばらつきが挙げられる。必要に応じて電話や面談を行う。 また、園で解決できないことについては行政当局との連携を図る。 個人情報を含む守秘義務の遵守は概ね高い評価ではあるが、引き続き守秘義務の意識向上に努めたい。
	2	守秘義務の遵守	
	3	対応上のマナー・心がまえ	
	4	クレームへの対処の仕方	
Ⅴ 地 域 の 自 然 や 社 会 と の 関 わ り	1	地域の自然・人々とのかかわり	幼小連携については、指導要録と送りなどを含め、園児・児童の交流会の機会や、授業参観などを通して深めていく必要がある。 「幼小連携の架け橋プログラム」については、宇部市教育委員会の主催による幼保小での研修会などを通し、小学校との連携をすすめている。 子育て支援や地域開放について、預かり保育・小さいこどもの会（未就園児の遊びの会）を実施中。
	2	小学校との連携	
	3	子育ての支援と地域への開放	
Ⅵ 研 修 と 研 究	1	研修・研究への意欲・態度	要特別支援児について「個別の指導計画」の作成を通して、教員相互の情報共有に努めている。一方で、近年の《こどもの主体性》を重視する保育についても学んでいきたいとの意見がみられた。
	2	保育者としての専門性に関する研修・研究	
	3	今日的課題に関する研修・研究	

3. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
概ね達成できた	今回の自己評価も質問紙に対しての4段階評価で行い集計したうえ、各項目で評価と課題を見つけるといった方法で行った。教員個々人が自身の保育を顧みることができる機会となったように思う。 今後もよりよい自己評価ができるよう、評価項目の精選や見直しを含め改善していきたい。また、下記課題については次年度以降も重点目標として取り上げ、改善に取り組んでいきたい。

4. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
ICTの活用について (継続)	バスキャッチシステムによりずいぶんICTの利用度が高まっている。 《身体測定》の項目があり、測定値を入力すると現在手作業で行っている記入や集計の作業が省力化でき、また保護者のスマホアプリから確認できる。こうした機能を最大限有効に使いつつ、日々の保育に注力できるようにしていきたい。
園外研修への参加	近年、現場の人手不足があり園外研修への参加機会が少なくなっていた。 幼稚園教諭の資質向上、また保育の最新事情を学ぶ意味も含め、来年度は園外研修への参加をなお一層すすめたい。